A Selection of Japanese Documentary Film: Arts on Screen

日本の文化・記録映画選：

芸術を記録する

フィルムセンターでは開館以来，公的な映画の保存機関として劇映画ははもちろん，文化・記録映画，ニュース映画といった非劇映画の収集保存にも積極的に取り組み，また企画上映の場でもその成果の紹介につとめてきました。とくに近年のシリーズ企画「フィルムは記録する 日本の文化・記録映画作家たち」では，フィルムを製作したプロダクションや作家たちに照明を当ててプログラムを構成し，我が国の文化・記録映画史を新たな視点で振り返ってきましたが，さらに今回は「日本の文化・記録映画選」を新シリーズとして立ち上げるとともに，多彩な角度からテーマを設定して，フィルムセンターのコレクションを公開していくことになりました。

その1回目となる本企画では「芸術」をテーマに，美術，工芸はもちろん伝統芸能，そして映画を扱った様々な時代の記録映画27本を選び，上映します。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

映画の出来るまで

NFC 小ホール

京橋映画小劇場

KYOBASHI-ZA No.8

2007年 12月7日(金)－12月23日(日)

※金曜日・土曜日・日曜日のみの上映となります。

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール（地下1階）

開映後の入場はできません。

定員＝151名（各回入替制）
発券＝地下1階受付
料金＝一般500円／高校・大学生・シニア300円／小・中学生100円／障害者（付添者は原則1名まで）は無料
・観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
・発券・開場は開映の30分前から行い，定員に達し次第締切となります。
・学生，シニア（65歳以上），障害者の方は，証明できるものをご提示ください。
・発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

小ホール上映作品

日本の文化・記録映画選：芸術を記録する
A Selection of Japanese Documentary Film: Arts on Screen

1　12/7(金)2:00pm　12/15(土)3:00pm

美術を記録する[1]（計74分）

日本が誇る芸術家たちの創作風景や日常の姿をおさめた貴重なフィルム。「美術映画シリーズ」は，1952年に開館して間もないブリヂストン美術館の製作によるもので，この分野での映像利用に先駆的な役割を果たした。現場の中心にいた小谷博貞によれば，音楽を担当した福田蘭童，篠野静江，團伊久磨はそれぞれ，川合，高村，鏑木が自ら希望したものであったという。

美術映画シリーズ　梅原龍三郎（9分・16mm・白黒）
'53（ブリヂストン美術館）㊐㊥高場隆史㊤小谷博貞㊢福見潤㊨高橋博

美術映画シリーズ　川合玉堂（11分・16mm・白黒）
'53（ブリヂストン美術館）㊐㊥高場隆史㊤小谷博貞㊢福田蘭童㊨高橋博

美術映画シリーズ　高村光太郎（9分・16mm・白黒）
'54（ブリヂストン美術館）㊐㊥高場隆史㊤小谷博貞㊢篠野静江㊨高橋博

美術映画シリーズ　鏑木清方（17分・16mm・白黒）
'54（ブリヂストン美術館）㊐㊥高場隆史㊦谷信一㊤小谷博貞㊥清水浩㊢團伊玖磨㊨高橋博

東山魁夷　唐招提寺障壁画の記録　山雲涛聲
（28分・35mm・カラー）
'76（日経映画社）㊐㊤小谷田亙㊥赤津光男

2　12/7(金)6:00pm　12/16(日)0:00pm

美術を記録する[2]（計72分）

戦後盛り上がりを見せつつあった文化事業への取り組みや海外美術の紹介を記録したフィルム。日本人と美術の関係を別の角度から眺めることができる。『YVES KLEIN　LE MONOCHROME』（『モノクロームの画家イヴ・クライン』）は美術評論家の瀬木慎一がクライン（1928−1962）の死後，夫人から提供されたプライベート・フィルムをもとに野田真吉が編集，構成した作品。

ルーブルを中心とするフランス美術展より
フランスの近代美術（25分・35mm・カラー）
'62（日本映画新社）㊐山添哲㊤藤原智子㊥林田重男㊧国島正男㊢三善晃㊨岸田今日子

YVES KLEIN　LE MONOCHROME
（29分・16mm・カラー）
'64（美術映画協会）㊥野田真吉㊧奥山重之助㊢武満徹

東京国立近代美術館誕生（18分・35mm・カラー）
'69（鹿島建設）㊐山本祐夫㊥入沢甲

3　12/8(土)0:00pm　12/16(日)3:00pm

工芸を記録する[1]（計90分）

磁器の歴史と技法をキャメラが追う作品プログラム。『色鍋島』と『中里無庵　唐津　その歴史・技法と鑑賞』は，それぞれ色鍋島，唐津焼について生前の人間国宝の姿を通して語ったもので，『藤本能道の色絵磁器―釉描加彩―』は，同じく人間国宝である藤本能道の生き方や独特の技に焦点を当てたもの。村山英治の『色鍋島』は1973年の芸術祭大賞など国内で数々の賞を受けた。

伝統工芸記録映画シリーズ2　色鍋島
（30分・35mm・カラー）
'73（文化庁＝桜映画社）㊐㊤村山英治㊥木塚誠一㊥長谷川宣人㊢長沢勝俊㊨観世栄夫

中里無庵　唐津　その歴史・技法と鑑賞
（27分・16mm・カラー）
'74（三幸エージェンシー）㊐㊤落合朝彦㊥阿部直行㊢團伊玖磨㊨石野倬

伝統工芸の名匠　藤本能道の色絵磁器―釉描加彩―（33分・16mm・カラー）
'87（桜映画社）㊐㊤村山正実㊥村山和雄，山屋恵司，木村光男㊥沼崎梅子㊢長沢勝俊㊨幸田弘子

4　12/8(土)3:00pm　12/21(金)2:00pm

工芸を記録する[2]（計67分）

蒔絵における二人の人間国宝・松田権六と田口善国の制作の場を捉えたフィルム。『蒔絵　松田権六のわざ』は，約8カ月間「蒔絵槇に四十雀模様二段卓」の制作を記録した作品で，『変幻自在　田口善国』は，「王蜂蒔絵飾箱」の制作過程を構想の段階から捉えた作品。

伝統工芸記録映画シリーズ1　蒔絵　松田権六のわざ
（31分・16mm・カラー）
'73（日経映画社）㊐小谷田亙㊤北條明直㊥森康㊥井上正司㊧甲藤勇㊢広瀬量平㊨平光淳之助

伝統工芸の名匠　変幻自在　田口善国　蒔絵の美
（36分・16mm・カラー）
'93（日経映像）㊐㊤黒崎洋一㊥大木大介㊢中島茂之㊨佐藤慶

5　12/9(日)0:00pm　12/21(金)6:00pm

工芸を記録する[3]（計95分）

伊勢型紙，日本刀，截金の作り手たちの仕事を追う作品。『伊勢型紙』は，古くからの産地・伊勢での型紙彫りの技に着目して，『色鍋島』に続き，村山英治が手がけた作品である。『日本刀―宮入行平のわざ―』は，炭つくりからこだわりを見せる日本刀づくりの巨人の仕事を紹介するもので，音楽は武満徹が手がけた。『西出大三　截金の美』は，截金の研究を通して独自の技法を切り開いた西出の姿を追ったもの。

伝統工芸記録映画シリーズ6　伊勢型紙
（30分・35mm・カラー）
'77（桜映画社）㊐㊤村山英治㊥金山富男㊢山内忠㊨伊藤惣一

伝統工芸記録映画シリーズ5　日本刀―宮入行平のわざ―（35分・35mm・カラー）
'80（岩波映画製作所）㊐山内登貴夫㊢武満徹㊨伊藤惣一

伝統工芸の名匠　西出大三　截金の美
（30分・16mm・カラー）
'86（プロコムジャパン）㊐㊤山添哲㊥広内捷彦㊧辻井一郎㊢間宮芳生㊨城達也

6　12/9(日)3:00pm　12/22(土)0:00pm

芸能を記録する[1]（計70分）

文楽の魅力に焦点を当てた作品プログラム。『生きている人形』は，女形遣いの第一人者であった桐竹紋十郎（1900−1970）による人形劇「十種香」を山田五十鈴の語りとともに紹介したもので，監修に山本薩夫が加わっている。『文楽に生きる　吉田玉男』は，2006年逝去した男役人形遣いの巨人の絶えざる精進を描いた作品。

生きている人形（28分・35mm・カラー）
'57（山本プロ＝文楽三和会）㊐㊤小林千種，武田敦㊥前田実㊦山﨑正夫㊥河野秋和㊧安恵重遠㊨山田五十鈴

伝統芸能の粋　文楽に生きる　吉田玉男
（35分・16mm・カラー）
'81（ポーラ伝統文化振興財団）㊐㊤木村正美㊥住田望㊥高松玄二郎㊧膳師豊㊢園田芳伸

7　12/14(金)2:00pm　12/22(土)3:00pm

芸能を記録する[2]（計69分）

六世野村万蔵と九世三宅藤九郎―人間国宝の磨き上げられた芸と向き合った2本の作品。前者は知られざる「狂言」の舞台裏にいち早くキャメラを向けた作品で，監督の羽田澄子はその後も伝統芸能への関心を持続しながら野心的な作品を発表している。後者はポーラ伝統文化振興財団が製作しているシリーズの1本で，吉田喜重が監督にあたっている点でも注目される。

狂言（37分・35mm・カラー）
'69（文化庁＝岩波映画製作所）㊐㊤羽田澄子㊥西尾清㊧安田哲男㊨奈良岡朋子

伝統芸能の粋　狂言師　三宅藤九郎
（32分・16mm・カラー）
'84（日経映像）㊐吉田喜重㊥高畦幸一，小沢健次㊥武田幹夫，井上正司㊧梅林一夫㊢一柳慧㊨伊藤惣一

8　12/14(金)6:00pm　12/23(日・祝)0:00pm

芸能を記録する[3]（計89分）

歌舞伎の魅力に迫った新旧の記録映画。六世尾上菊五郎の舞台を小津安二郎監督が記録した『鏡獅子』は1934年に設立された国際文化振興会が日本文化を海外に紹介する目的で企画した映画の一つ（英語版）。他の2本は国立劇場の企画で製作された教材シリーズ。前者はタテ師・坂東八重之助による演出，稽古風景をフィルムにおさめたもの，後者は歌舞伎十八番の一つ「景清」に登場する衣裳の美的効果に注目している。

鏡獅子［英語版］
（22分・16mm・白黒・日本語字幕無し）
'36（松竹キネマ）㊐小津安二郎㊥茂原英雄

歌舞伎の立廻り（34分・16mm・カラー）
'81（桜映画社）㊐㊤藤原智子㊥植松永吉，村山和雄㊥吉田栄子㊨相川浩

歌舞伎の魅力　景清の衣裳（33分・16mm・カラー）
'94（英映画社）㊐㊤松川八洲雄㊥八幡洋一，小林治㊨加藤武

9　12/15(土)0:00pm　12/23(日・祝)3:00pm

映画を記録する（計84分）

映画についての映画。前の3本は戦中期に製作された文化映画で，『日本映画史』は3部作のうち2部が現存している。珍しい初期作品の映像や著名弁士たちの説明が収められており，当時の映画史研究の成果を知るうえでも興味深い。戦後作られた『映画の出来るまで』は，実際の撮影所の様子も紹介しながら映画の製作工程を平易に解説した教育映画だが，映画が産業的なピークを迎えていた"黄金時代"の空気に圧倒される。

日本映画史　第一部／第二部（35分・35mm・白黒）
'41（大日本映画協会）㊥㊥大田皓一㊨松井翠聲

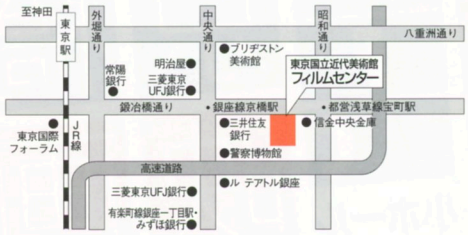
文化映画　トーキーの話（9分・35mm・白黒）
'38（大日本映画協会）㊐大石郁雄

映画は前進する（20分・16mm・白黒）
'41（十字屋文化映画部）㊥渡邊義美㊥坂齋小一郎，岡本昌雄㊧田中啓次，四釜壽郎㊢西山龍介

映画の出来るまで（20分・35mm・白黒）
'59（東映教育映画部）㊐今泉善珠㊤岡田山仁

■㊐＝監督・演出　㊥＝構成　㊤＝脚本　㊥＝撮影　㊦＝美術
㊥＝編集　㊧＝録音　㊢＝音楽　㊨＝解説・語り
■特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
■記載した上映分数は，当日のものと多少異なることがあります。
■プログラムの内容や上映順序はやむを得ず変更になることがあります。

12月	金曜日	土曜日	日曜日
		7日	8日	9日
2:00pm	1 美術を記録する[1]	0:00pm　3 工芸を記録する[1]	0:00pm　5 工芸を記録する[3]
6:00pm	2 美術を記録する[2]	3:00pm　4 工芸を記録する[2]	3:00pm　6 芸能を記録する[1]
	14日	15日	16日
2:00pm	7 芸能を記録する[2]	0:00pm　9 映画を記録する	0:00pm　2 美術を記録する[2]
6:00pm	8 芸能を記録する[3]	3:00pm　1 美術を記録する[1]	3:00pm　3 工芸を記録する[1]
	21日	22日	23日
2:00pm	4 工芸を記録する[2]	0:00pm　6 芸能を記録する[1]	0:00pm　8 芸能を記録する[3]
6:00pm	5 工芸を記録する[3]	3:00pm　7 芸能を記録する[2]	3:00pm　9 映画を記録する



フィルムセンター　〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通：
東京メトロ銀座線京橋駅下車，出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車，出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車，出口7より徒歩5分
JR東京駅下車，八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600
NFCホームページ：
http://www.momat.go.jp/
NFC携帯電話ウェブサイト：
http://www.momat.go.jp/nfc/k/